

## 加藤幸三郎名誉教授が中国・河南大日本研究所兼職教授に

加藤幸三郎名誉教授は、中国河南省開封市にある河南大学（1912年創立の総合大学。蔵書数300万冊といわれ膨大な敷地に新築移転中）の日本研究所創立記念シンポジウム「2006中日文化伝播と経済発展論壇」で、「日中交流関係より見た日本紡績業の特質」をテーマに報告。その折「日本研究所兼職教授」の「聘書」を授与された。開封は、中原の中心、六王朝の都で、城壁に囲まれた古都の佇まい。著名な劉少奇陳列館もある。



▲河南大学正門

## 小林伸一郎さんの写真集『亡骸劇場』話題に

全国の“廃墟”を独自の視点で撮り続ける小林伸一郎さん(=写真=昭53経済)が、集大成となる写真集『亡骸(なきがら)劇場』(講談社、3800円+税)を刊行。話題を呼んでいる。

誰もいなくなった病院、ホテル、レストラン、遊園地に放置されたメリーゴーランド、小学校の教室に残された黒板…。忘れ去られ、朽ち果てようとしている空間や「もの」から、華やかだった時の残滓(ざんし)を見ることができる。

7月には、作品の中から50点を集めた写真展が東京・銀座ニコンサロンで開催され、好評だった。



## 「夜明けの国」をめぐる 専修大学中国倶楽部、土屋昌明研究室主催シンポ 40年の時を経て—当時の記録映画から「文化大革命」を考える

記録映画から文化大革命と日本人との関係を考えるシンポジウム「イメージとしての文化大革命 映画『夜明けの国』をめぐる」(専修大学中国倶楽部、土屋昌明研究室・主催)が7月16日、神田キャンパスで130人が参加して行われた。土屋教授をはじめ、倶楽部と研究室の学生たちが激動の中国現代史を再認識しようと企画したもので、観衆を巻き込んだ討論が展開された。

同映画は1966年に時枝俊江監督、岩波映画により制作された現地ドキュメンタリー。「文革」初期の中国のありようや人々の姿を描き翌年、全国で上映され話題となった。

当日は上映後、土屋教授、ブックデザイナーの鈴木一誌氏、下澤和義教授、中島隆博東京大学助教授が同映画についてさまざまな角度から討議。聴講者との質疑応答では当時の映画スタッフも加わって討論に熱が入り、「文革」が日本に及ぼした影響が浮び上がった。また当時の中国のポスターなど資料の展示、詳細な採録シナリオや関連年表など充実した資料集も配布された。



▲中国の地図を示しながら講演する土屋教授

## 松山・岩国両市で開催 校友会支部主催公開講座

### 多彩な顔ぶれで大盛況の会場

学外への社会知性の発信と、校友会地方支部活動の活性化を目的とした公開講座が愛媛県松山市(主催＝愛媛支部・伊予おおとり会・宇摩鳳会)と山口県岩国市(主催＝山口県支部連合会)で開講された。松山会場には約400人、山口会場には約200人が来場し、各会場とも大盛況だった。

#### 【7月20日・松山市民会館】

鳥羽水族館名誉館長の中村幸昭(はるあき)氏(昭26経学)が「自然・環境・人間」をテーマに、人間による環境破壊がもたらす影響について話し、「共存のためには自然との付き合い方を考えなければ」と結んだ。ユーモアたっぷりの講演に会場は笑いに包まれていた。

続いて、黒瀬直宏・商学部教授が「中小企業の市場創造戦略」について論じた。日本の中小企業を取り巻く環境と、その中で成功した企業を紹介し、企業による市場創造について実例を挙げながら解説した。

#### 【7月23日・シンフォニア岩国】

「地方のお宝を探そう」をテーマに元東京芸術大学学長、同名誉教授で、彫刻家、日本芸術院会員の澄川喜一氏が講演した。山口県の歴史や偉人を紹介し、明治維新をリードした「人づくり」について言及。「これからは本物志向が大切。大学経営も物真似でなく、オリジナルな特徴ある大学作りが問われる」と、大学経営への提言を述べた。

続いて国立米子工業高等専門学校専任講師の原豊二氏(平12院文博)が「源氏物語という名の『文化財』」をテーマに研究成果を発表。架空の人物である光源氏の人物像やその生涯などを追い、源氏物語という作品の世界を学術的に論じた。

## 第7回全国支部四国ゴルフ大会

### 甘竹校友会長が連覇

第7回全国支部四国ゴルフ大会「アドニスカップ」が7月21日、愛媛県の奥道後ゴルフクラブで行われた。全国各地から校友会員ら55人が参加し、さわやかな汗を流し、交流を深めた。

この大会は各地域支部の交流と活性化を目指し、毎年巡回で開催されている。伊藤良雄実行委員長(校友会副会長)、井原巧・四国中央市長(昭61経営)のあいさつ、蒲田重勝大会競技委員長(校友会体育振興部長)の競技説明を受け、競技開始。参加者が日ごろの練習の成果を発揮するなか、甘竹秀雄校友会長が優勝。昨年に続き、連覇を達成した。大会後には表彰式と懇親会を開催。伊予おおとり会の河野弘氏(昭43商)の音頭で乾杯し、談笑した。

なお、チャリティーホールで集まった賛助金1万9000円は、全額ユニセフに寄付した。